

2. 石岡市の景観の現状

(1) 自然景観の現状

特徴	○ 山並みの景観（筑波山、加波山、吾国山） ○ 恋瀬川、園部川から眺望する田園景観 ○ 市内各地に見られる特徴ある自然景観
課題	● 自然景観と人工物との調和、人の手が加わることでの保全

筑波山（標高877m）は、関東平野の北部にそびえ、歌川広重「江戸百景」に描かれるなど、古くからその景観が多くの人に親しまれている山です。方角によって姿が変わり、石岡市からは西に向かって緩やかな傾斜の姿が見え、夕景にシルエットが浮かび上がります。石岡市には、このほか加波山、吾国山などの山々があり、市内各地では、初夏の新緑、秋の紅葉といった四季それぞれの景観を楽しむことができます。山の頂や中腹からは、立ちこめる雲海などを見下ろす景観の楽しみ方もできます。

山懐から霞ヶ浦に向かっては、古く万葉集などに詠まれ、しづくがわ（師付、信筑、志筑）とも呼ばれた恋瀬川が流れています。市域東側には園部川も流れ、これらの川に沿った肥よくな水田地帯や川に架かる橋からは、筑波山や山並みを背に見渡す田園景観が得られます。静かな山中に踏み込むと、そこには鳴滝のような風景も見られます。

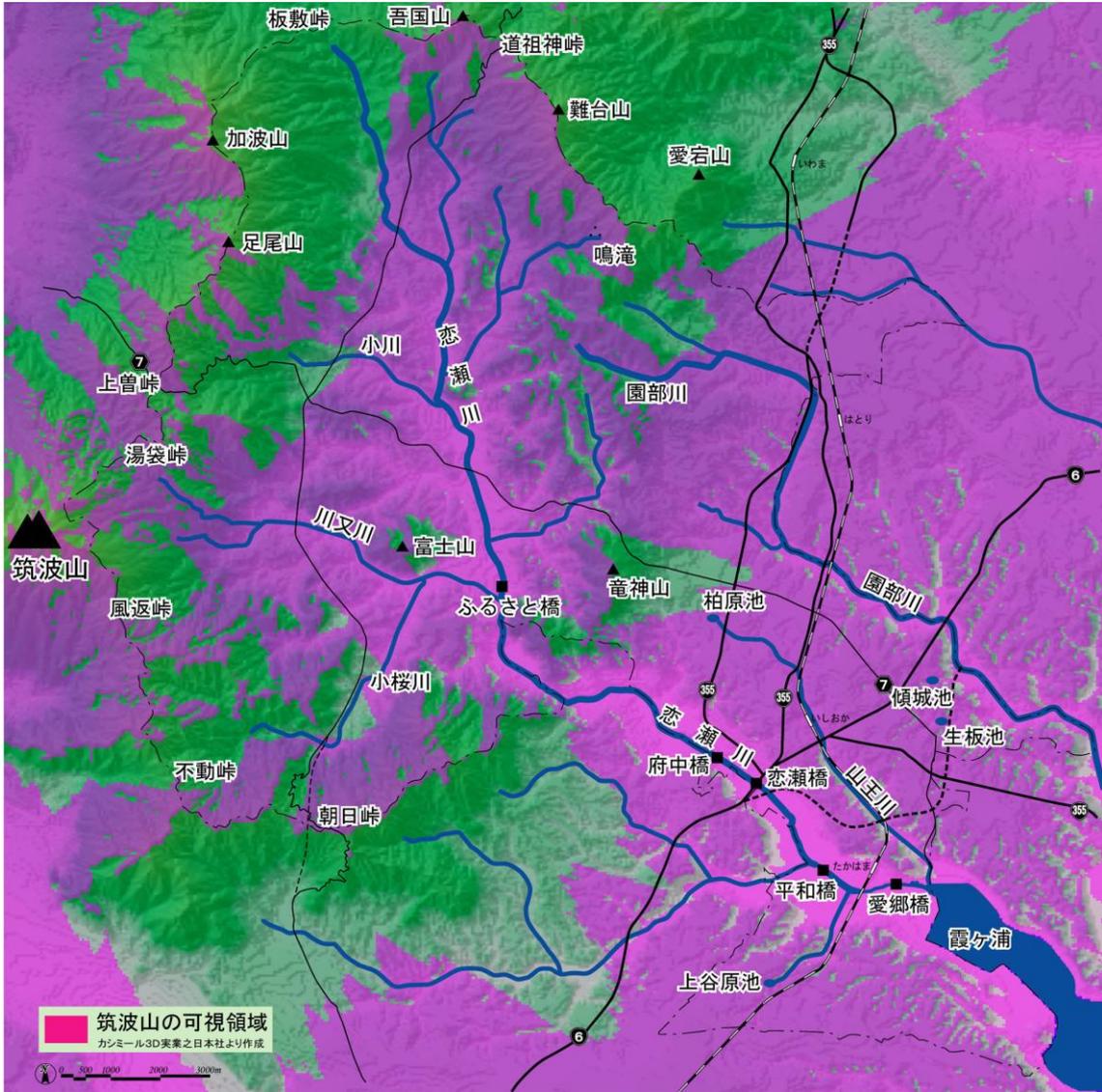
恋瀬川と園部川との分水嶺地帯（嘉良寿里^{からすり}地区など）には、なだらかな傾斜地が入り組んだ独特の畑作地景観も見ることができます。

市街地の際を流れる山王川や、市街地の一部にある生板池や柏原池などは、人工物に囲まれた空間におけるオアシスのような景観となっています。このほかにもため池は市内各所に分布し、緑に囲まれひっそりとたたずむ貴重な空間となっています。

霞ヶ浦には、水面に浮かぶ水鳥や川岸の水草、ヨシ原など、豊かな自然を楽しむ景観があります。

こうした貴重な自然の景観においては、眺望がより美しく見えるように人工物との調和を図る環境を整えることが大切です。また、石岡市の自然は地域の手が加わることで創られた景観であることから、保ち、伝えていくことが大切です。

石岡市の地形と水系



恋瀬川越しに見る端正な姿の筑波山（愛郷橋から）



傾斜地が入り組む畑地（園部川上流。嘉良寿理付近）



市街地の一角にたたずむ生板池から望む筑波山



峰寺山西光院から見下ろす眺望



静かな山中に流れ落ちる鳴滝



たなびく雲を見下ろす（筑波山付近から）



山並みと田園を満喫するグライダー（八郷地区）

(2) 歴史的景観の現状

特徴	○ 古代常陸国府から昭和まで積み重なる中心市街地の歴史的景観 ○ 市内各地に見られる歴史的景観資源（古墳、町並み、社寺、茅葺き民家等）
課題	● 失われていく建造物の保全・維持の課題

県土の中心に位置する石岡市には、律令制の整った奈良時代に常陸国の国府が置かれました。近年行われた発掘調査によると、常陸国庁である国衙跡は、石岡小学校の敷地であるとほぼ結論づけられました。その北部には、常陸国分寺、常陸国分尼寺の跡が立地しています。中世には常陸大掾平氏の府中城が築かれ、戦国末期には佐竹氏によって街割りの基盤が整えられました。江戸時代には水戸街道（江戸街道）の宿場が整備され、常陸府中藩の陣屋が置かれました。さらに明治期に常磐線が開通して以降、物資の集散する商業・業務の中心地として栄えました。町家造りや蔵造りの近代建築物は、登録文化財の指定を受けながら、現代生活に合わせて保全が図られています。大火があった昭和4年以降に相次いで建築された看板建築は、町並みの一つの特徴となっています。中心市街地には、こうした古代から昭和までの歴史が積み重なっており、町並みの至るところでその重みを感じ取ることができます。

水と緑の自然環境に恵まれ、気候の温暖な石岡市は、古代から万葉集や常陸国風土記にも美しい自然が詠まれた暮らしよい地域でした。霞ヶ浦を見下ろす台地には、東国第二位の規模を誇る前方後円墳「舟塚山古墳」が立地し、かつて存在した豪族の権勢を感じ取ることができます。高浜は、建ち並ぶ家並みから、水運が栄えたころの歴史的雰囲気を感じ取ることができます。

各地に立地する社寺も、歴史的な景観の大切な資源です。峰寺山西光院は、断崖に建つことから関東の清水寺と呼ばれ、見下ろす眺望は見事です。麓の吉生地区からのアイストップ¹ともなっています。このほか、緑豊かな山中に国分寺等の瓦が焼かれた窯跡が残っていたり、薬師古道があったり、市内各地には、様々な歴史にまつわる景観資源を見いだすことができます。市内では、八郷地区を中心に数多くの茅葺き民家を見ることができます。全国的に数が少なくなりつつある中、丹精に管理された茅葺き民家がこれだけ残っているのは、非常に貴重なことであると言えます。

「にほんの里100選」に選ばれた筑波流茅手の八郷地区茅葺き民家をはじめ、歴史的景観の多くは、地域の材料をもとにして、特有の技術があって初めて伝えられるものです。歴史的景観は、時代の波にさらされ失われていく建造物も多いため、これらを培った地域の素材や技術とともにしっかり保全・維持を図り、後世に伝える努力が求められます。

¹ アイストップ (eyestop) とは、人の視線を 引きつけるものをいいます。

歴史的景観資源の分布



中心市街地の一角にたたずむ常陸国分寺跡



中心市街地の大通りに面した看板建築



太古の威風を現代も感じる舟塚山古墳の眺め



万葉集や常陸国風土記には美しい自然が詠まれた



集落の中で大切にされる佐久の大スギ



恋瀬川上流の緑に囲まれた板敷山大覚寺



関東の清水寺とも呼ばれる峰山山西光院

(3) 市街地・集落景観等の現状

①市街地

特徴	<ul style="list-style-type: none"> ○ まちの顔としての中心市街地の景観 ○ 住宅、工場等の特徴ある市街地の景観
課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 賑わいを感じる中心市街地の景観を取り戻す ● 適切な維持管理により市街地の特徴を生かす ● 潤いをもたらす緑、統一感をもたらす町並みをつくる

石岡市の中心市街地は、商業・業務系の建物が建ち並び、JR常磐線石岡駅もあり、まちの玄関口となる場所です。歴史の積み重なる景観もあり（前節参照）、まちの顔として賑わいを取り戻すことが大きな課題となっています。

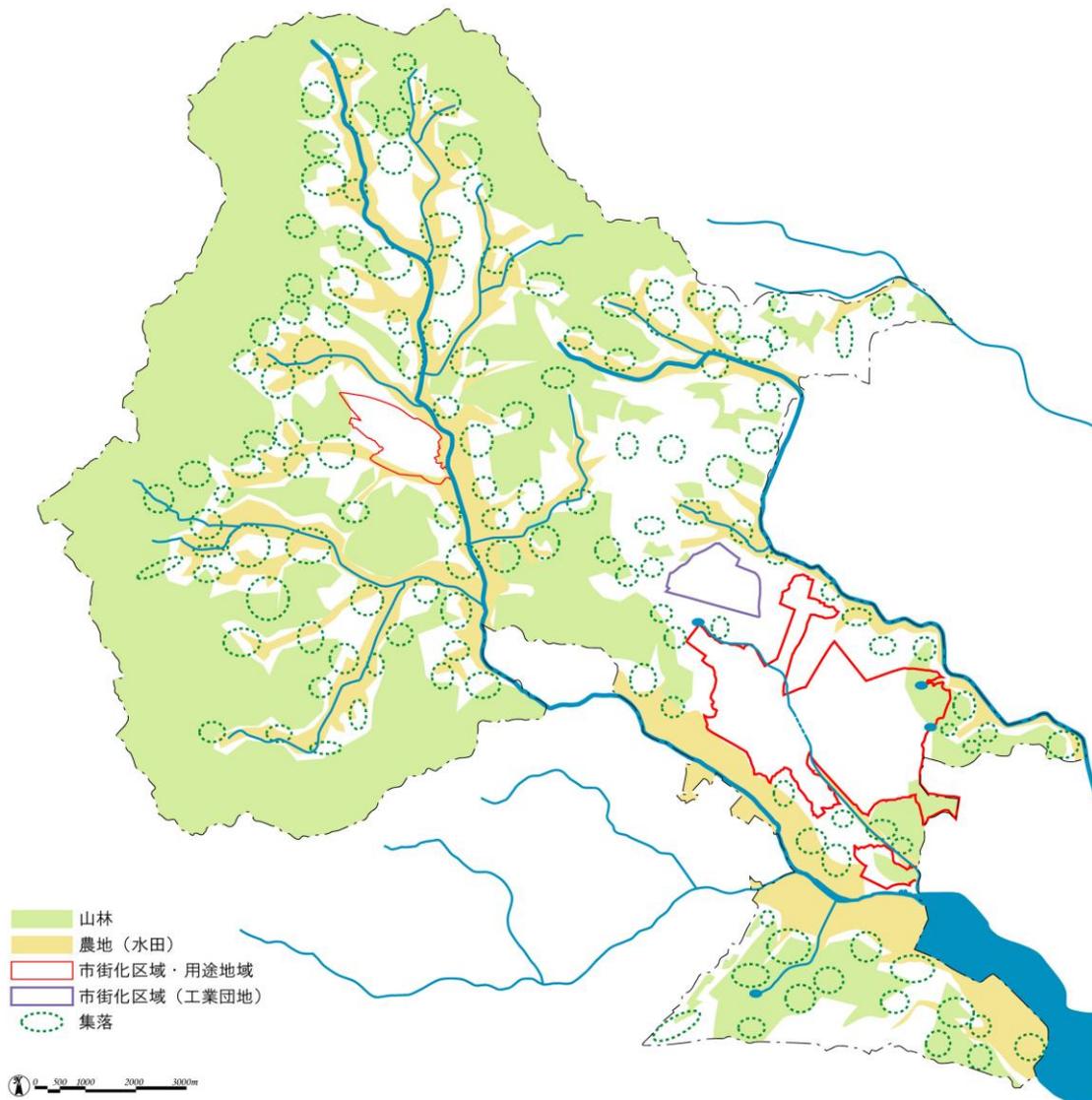
中心市街地の東側には、計画的に形成されて区画が整った住宅が建ち並ぶ市街地が広がっています。柏原工業団地は、並木のある幅広い道路によって区画された街区で構成されています。工場の周囲には、骨太の街路が通り、広い公園や公共施設も集積しています。八郷地区の中心に位置する柿岡は、地域の生活を支える様々な業種の店舗が集積する市街地が形成されています。これらの市街地は、それぞれの特徴を捉え、適切な維持管理を図りながら、それをまちづくりに生かしていくとともに、潤いの少ない町並みには緑を、乱雑な町並みには統一感をそれぞれつくっていくことが大切です。

②集落・農地

特徴	○ 緑に囲まれた集落の景観
課題	● 山林や農地の良好な景観維持

市域は、山林や農地が広大な面積を占め、そこに数多くの集落が分布しています。集落には、伝統的工法による外観の民家が多く立地し、その周囲は、山林や農地、屋敷林や生け垣といった多くの緑に囲まれています。これらの緑は里山とも呼ばれ、暮らしと一体となって創られ、守られてきた景観です。集落には、こんもりと繁る緑に囲まれた神社があり、住民らにより特に大切な場所として守られています。農地は集落の大切な生産空間であり、地形を生かして農地がつくられ、中には農家の芸術作品のように見えるところもあります。色鮮やかな実を結ぶ果樹も、本市の特徴として各地で見られます。田植えから黄金色の稲穂の刈り入れまで、四季の移り変わりを色濃く感じ取ることができるのも、集落の景観の特徴といえます。農業の直面する厳しい経営環境によって、山林や農地の荒廃など、良好な集落景観の維持には多くの課題があります。

市街地・集落の分布



③幹線道路

特徴	○ 緑に囲まれた幹線道路
課題	● 道路の新設に伴う沿道建造物の景観配慮 ● 屋外広告物の適切な誘導・規制

幹線道路は多くの市民が利用し、公共性の高い景観であると言えます。本市の動脈である国道6号や国道355号は、沿道サービス施設や大規模商業施設が乱立する景観となっています。これに対しフルーツラインやふるさと農道は、周囲を山林や農地の緑に広く囲まれ、アイストップには筑波山を眺めるなど、良好な田園景観となっています。現在整備が進む国道6号バイパスや朝日トンネルでは、今後、沿道の建造物において景観への配慮が求められます。幹線道路において屋外広告物は、地域経済の機能を担う一方、良好な地域景観を形成するためには、地域の特徴に応じた適正な誘導・規制が必要です。良好な田園景観を妨げないよう電柱の適切な配置も必要です。また、潤いの少ない幹線道路には、街路樹を整備することも大切です。

違反屋外広告物の状況（野立広告）

路線（県道番号）	件数	路線（県道番号）	件数
国道6号	83件	県道笠間つくば線 (42)	12件
国道355号	78件	県道土浦笠間線 (64)	24件
県道石岡筑西線 (7)	168件	県道月岡真壁線 (150)	20件
県道石岡つくば線 (138)	1件	県道竹ノ内羽鳥停車場線 (278)	13件
県道石岡城里線 (52)	24件	県道紅葉石岡線 (144)	5件
県道飯岡石岡線 (221)	8件	広域農道フルーツライン	115件
県道石岡田伏土浦線 (118)	14件	ふるさと農道	1件
県道西小墾石岡線 (140)	53件	—	—
合計			618件

④公園・緑地等

特徴	○ 地域の景観に潤いを与える都市公園 ○ 四季折々の花木を楽しむ観光施設
課題	● 適切な維持・管理による地域景観づくり

柏原池公園をはじめとする都市公園は、市内各地に整備され、地域の景観に潤いや安らぎを感じさせる役割を担っています。常陸風土記の丘、茨城県フラワーパークは、四季折々の花木を楽しむ観光拠点となっています。愛郷橋から浦須橋までを結ぶ恋瀬川サイクリングコース（17.2km）は、豊かな自然景観を見ながら走れる自転車専用道として整備されています。

これらの施設については、周辺の土地利用や道路も含めて、適切に維持・管理し、地域の良好な地域景観づくりに生かしていくことが大切です。

幹線道路網及び主な公園等の分布



国道6号



フルーツライン



ふるさと農道



幹線道路沿道の屋外広告物（県道石岡筑西線）



常陸風土記の丘



柏原池公園



茨城県フラワーパーク



恋瀬川サイクリングコース